

山口県労協機関紙 連合山口・労働金庫・全労済山口・県生協連・13地区労福協

やまぐち労福協

vol. 135
2011.11月号

社団法人 山口県労働者福祉協議会

〒753-0078 山口市緑町3番29号 TEL (083) 925-7332 FAX (083) 921-1650
Eメール roufuku@orange.ocn.ne.jp 発行人:大塚健二・編集人:廣瀬哲夫

第33回山口県労福協福祉メーデー開催

～ 連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくろう ～

11月9日(水)13時より、県労福協会館にて地区労福協・連合山口・労金・全労済・生協連・高退連合から約80名が参集し、第33回福祉メーデー山口県集会を開催しました。杉本副会長の開会挨拶に続き、議長に山口地区労福協の永富会長を選出しました。主催者を代



表して中野会長は、「3・11の大震災以降すでに8ヶ月が経過しているが、現地では未だ厳しい状況が続いている。日銀短観によると景気はやや持ち直しているというものの雇用面からみた場合、失業率は4%台と高止まりし、有効求人倍率は0.74と3年連続1を割っている。また来年度の新卒者の就職戦線は今年よりも厳しくなるといわれており、まさに若者に夢が持てない事態になっている。こうした中、県労福協は“絆を基本とした”生活あんしんネット、サポステ（若者サポートステーション）、PS（パーソナル・サポート・サービス）事業を着実に前進させていきたい」と挨拶しました。引き続き大塚専務より「新年度の対県要請について」、中国労金山口県営業本部の山根上席調査役より「お金の問題！第2次気づきキャンペーンの継続」、全労済山口県本部の瀬光執行役員より「東日本大震災と全労済の対応」、山口県生協連の吉崎専務より

「東日本大震災の支援活動と生協の役割」についての基調報告がされ、満場一致承認されました。今回の基調報告では、全労済・生協連から3・11大震災の被害者に対する物心両面にわたるキメの細かい対応について報告がされました。続いて、第21回勤労者文化展の表彰を行い、集会宣言、スローガン採択し集会を終了しました。

福祉メーデー終了後、中央労福協の会長職務代行の山本幸司氏による「働くことを軸とする安心社会について」というテーマで特別講演会を開催しました。講演では、「生産年齢人口の減少および少子化、年収200万円未満の労働者の増加、人間の絆の衰退若者意識、13年連続して3万人を超える自殺者など、日本社会の持続可能性が脅かされている。このま



- 中央労福協 会長職務代行 山本幸司氏 -

ま推移すれば日本社会は成り立たなくなる」と述べ、こうした現状において、持続可能な目指すべき社会の姿（働くことを軸とする安心社会の実現）に向けて、連帯を始めとする労働団体や、労福協や福祉事業団体の果たすべき役割についてふれて終了しました。

山口県へ勤労者福祉の拡充・強化を要請

(平成24年度県要請)

11月22日、山口県に対し平成24年度勤労者福祉の拡充・強化を要請しました。要請書の提出にあたり中野会長は、県労福協活動に対する日頃からの理解と支援へのお礼を述べるとともに、「今後も働くものの幸せの向上に向けた取り組みを積極的に行っていききたい。そのためにも更なる支援をお願いしたい」と挨拶



しました。

引き続き大塚専務より、制度・施策の充実と改善について、労働者福祉事業団体の育成強化について、財政援助について30項目にわたる要請事項の主旨を説明しました。

これに対し森商工労働部長より「厳しい財政状況ではあるが、要請主旨を踏まえ各部署で検討したい。なお県労福協が県民を対象として“地域若者サポートステーション”や“パーソナル・サポートサービス事業”等について、積極的に取り組みされておられることに心から感謝を申し上げたい」と挨拶がありました。

その後、雇用を取り巻く環境等について懇談し、“共に力を合わせ、出来ることはしっかりやって行く”ことを確認して終了しました。

中小企業勤労者の共済事業の充実と強化に関する要請行動を実施

11月14日(月)・16日(水)・21日(月)に県労福協から中野会長・加藤副会長・大塚専務が、地区労福協からは会長・副会長・事務局長が同行し、未組織の中小企業勤労者の福祉の向上を目指して防府・山口・萩・宇部・山陽小野田・下関・美祢各市の勤労者福祉共済会会長宛てに、勤労福祉共済会事業(ハートピア共済)の充実と強化に関する要請書を提出しました。近年の経済環境の厳しさもあって平成23年5月末で、加入事業所数は県内で3,409、加入者数26,567人(対前年比 604人)、加人口数52,433口(対前年比 1,289口)と減少傾向が続いています。このような状況を踏まえ、中野会長から「厳しい時にこそ勤労者の安心を少しでも向上させるべく、ハートピア共済

事業の広報活動や加入促進活動に、地区共済会としてこれまで以上にご尽力をいただきたい」と要請しました。



- 萩市への要請の様子 -

～ハートピア共済とは～

中小企業の勤労者に対し、事業主が従業員の福利厚生制度の一環として掛金を負担する制度で、従業員にとっては交通事故や怪我、病気などの保障のほか人間ドック・脳ドックの受診助成や全国の宿泊施設利用料補助などがありメリットの大きい制度です。

地区労福協だより

萩・阿武地区労福協「第17回通常総会」開催

萩・阿武地区労福協は7月28日に第17回通常総会を開催しました。活動方針として地域福祉運動を盛り上げるための「バリアフリー みんなで楽しく遊びましょう」を12月10日に開催することや、2012年1月21日に「労福協まつり」を開催することを確認しました。今年度は改選期ではありませんが、役員変更と役員補充を提案し承認されました。



宇部地区労福協「市民労働福祉講座」開催

10月13日に宇部市総合福祉会館において、宇部地区市民労働福祉講座を開催しました。講師に元大分県佐伯市職員の矢野大和さんを招き、男女共同参画について講演をいただきました。矢野さんは「笑って元気、身近な男女共同参画」と題して、「男女共同参画は分業が最大のテーマ。分業はコミュニケーションで成り立つのでお互いに話し合うことが重要」と笑いを交えながら人を元気にする方法やコミュニケーションの大切さについて話されました。講演後のアンケートでは、多くの参加者から「大変面白かった」「また話を聞

きたい」との感想があり、今回の福祉講座が大変有意義だったと思われました。



ペットボトルのキャップを集めよう！



<http://ecocap007.com>
(協賛：中央労福協)

山口県労福協はCO₂の削減とペットボトルキャップの売却益で世界の子どもたちにワクチンを届けるため「エコキャップ運動」を続けています。一般個人や労働組合の皆さんの協力で、これまでの回収実績が400,760個(ポリオワクチン501人分、CO₂: 3,156kgの削減)になりました。環境保護と途上国の子どもたちのため、キャップを回収して役立てましょう。

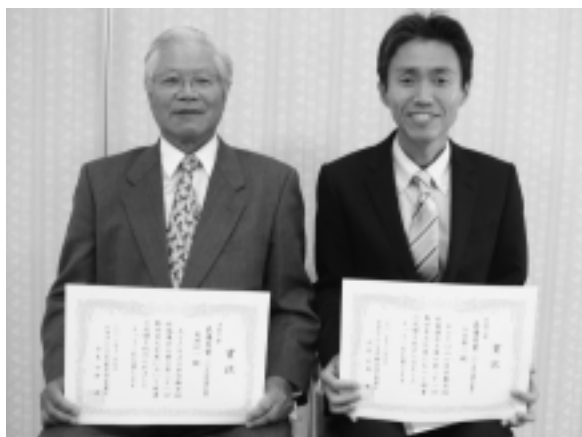
詳しくはエコキャップ推進協会HPまたは山口県労福協HP (<http://www.welfareyg.jp>) でご確認ください

第21回山口県勤労者文化展を開催しました

～最優秀には写真の部：今田徹二氏、洋画の部：鬼頭征一氏～

山口県勤労者文化展は、勤労者の充実した芸術文化活動の促進を図ることを目的とした県労福協の事業であり、今年度で21回目の開催になりました。今回の文化展には写真の部31点、洋画の部31点の出品がありました。審査は、写真の部は写真家の栗林和彦氏と下瀬信雄氏、洋画の部は武田雅行氏（山口芸大）と菊屋吉生氏（山口大学）で行われました。審査員より総評として、写真の部は「バラエティーに富んだテーマが集まった。自然を被写体にしたものが多く、その中でも日常目にする光景をシャープな感覚で切り取った作品が目をつけた。こうした分野にも挑戦してもらいたい。」洋画の部は「全体的に風景やモチーフを描いた作品が中心だったが、地球の

ことや日本のことや自らをモチーフに託すことも可能。そうした作品が皆無だったことが残念。」とそれぞれ総評をいただきました。



- 最優秀賞の鬼頭征一さん(左)と今田徹二さん(右) -

【第21回山口県勤労者文化展入賞者】

【写真の部】

賞	作品名	作者	職場・労働組合名
最優秀（山口県労福協会長賞）	鉄 路	今田 徹二	中国電力ユニオン
優 秀（連合山口会長賞）	カンボジアの少年 “小さな幸せ”	剣持 研治	神鋼労組アルミ・銅支部長府地区
優 秀（中国労金山口県本部長賞）	糸の輝き	北原ノブ子	関門産業
優 秀（全労済山口県本部長賞）	Uターン	西村 利満	神鋼労組OB
優 秀（山口県生協連会長賞）	華の乱	福本 高俊	彦島製錬

【洋画の部】

賞	作品名	作者	職場・労働組合名
最優秀（山口県労福協会長賞）	ファイナルドック	鬼頭 征一	三菱重工労組下船支部OB
優 秀（連合山口会長賞）	晩 秋	福永 敏夫	東洋鋼鋳労働組合
優 秀（中国労金山口県本部長賞）	徳佐の桜	橋本美保子	小林耳鼻咽喉科医院
優 秀（全労済山口県本部長賞）	悠 久	鳴川 辰夫	日立労組
優 秀（山口県生協連会長賞）	初舞台 りな	久村ゆかり	周南市役所

2011年度「障がい者運転免許取得特別講座」

～県内で3校目を開講しました～

知的障がいなどを持つ生徒の「自動車運転免許取得を支援する特別講座」の開講式が、下関総合支援学校の生徒を対象に早稲自動車学校において9月20日に行われました。

この支援講座は障がい者の職業能力開発による自立支援を目的とした県労福協の独自事業であり、2006年度から山口総合支援学校(協力自動車学校は湯田自動車学校)で、また2010年度からは山口南総合支援学校(協力自動車学校は小郡自動車学校)で開講しており、今回の特別講座は県下で3校目の開講になります。開講式では県商工労働部、県教育庁特別教育推進室から激励の挨拶を受けました。最後に受講生5名の紹介があり、受講生の1人1人が決意も新たに免許取得に向けた決意を述べて開講式は終了しました。

山口南総合支援学校は受講生8名で9月21日に開講し、11月2日閉講しました。

山口総合支援学校は12月2日から6名で開講予定です。



- 下関総合支援学校の開講式の様子 -

福祉なんでも相談会in柳井 開催

県労福協では、1999年度より生活あんしんネット事業の一環として毎年各地で無料福祉なんでも相談会を開催しています。今年は柳井地区労福協の協力により10月22日(土)に柳井市中央公民館で開催しました。相談会は事前に折込チラシで告知し、5件の相談予約を受け付けました。老老介護の問題や要介護認定の基準、障害者への助成、子育てについて等の多様な悩みに十楽浩之社会福祉士が無料で応えました。1件につき1時間の相談時間を設けており、相談者は専門家とじっくり話すことで日ごろのストレスも発散できたようです。相談者からは、介護保険制度の利用の仕方や身障者手帳の取得等を気軽に相談できる

窓口が身近にあればとの声がありました。生活あんしんネットではこうした福祉に関するお困りごとに保健師が応えています。お悩みの方は電話・メール・来館でご相談ください。

【生活あんしんネットへのお問い合わせは】

電話 0120-505-783

メール anshin.yamaguchi@themis.ocn.ne.jp

来館 山口市緑町3-29

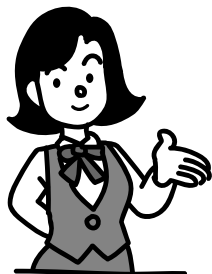
労福協会館1階 生活あんしんネットへ

(来館の際には事前に電話連絡をお願いします。)

生活あんしんネットより

福祉相談事例**【相談概要】**

事故により変形性腰椎症を患っている60代女性。先日社会保険事務所で「障害年金に該当する病名なので申請すれば年金受給できる」と言われた。この病気になったのは何年も前なので、主治医に書類を書き換えてもらい遡及申請することはできるだろうか。今申請して受給できる年金額と遡及申請分とでは金額に差があるので、医師の書類の書き方ひとつで年金額が左右されるのは納得できない。

**【回答・対応】**

障害年金は書類審査であることを説明。
変形性腰椎症を申請すれば障害年金が受給できるかどうか社会保険事務所へ再度確認してから、書類の書き換えについて主治医へ相談するよう勧めた。

パーソナル・サポートセンターやまぐち（山口県委託事業）**【進路決定（2011年10月末日現在）】****就労者数50名 / 登録者数145名（就職率34%）**

パーソナル・サポートセンターやまぐちは、県内3地区（山口・周南・下関）で専門知識を持つパーソナルサポーターが就労や生活に必要なサービスを調整し、総合的な支援を行っています。また国・県・市町等の行政や公共職業安定所（ハローワーク）、社会福祉協議会、NPO団体等とも緊密に連携しています。支援される人と支援する人（パーソナルサポーター）が、お互いに寄り添い、最終的に就労し安定的な自立生活が送れるよう、二人三脚で歩いていく支援の形です。パーソナルサポーターは、相談者の生活や仕事について個別に相談やカウンセリングを行い、自立後まで継続して支援しています。

11月4日には東京で「第2回PS連絡会議」が開催され、モデル事業を実施している各県より取り組み状況と課題報告がありました。メンタルな問題を抱えた方や就労経験の無い方等の就労・自立に時間を要する相談者が多く、臨床心理士の配置等の整備や、一時宿泊所や食料提供等の緊急対応が共通課題となっていました。

